

平成29年度第3期若者議会

若者政策 事業概要シート

事業名

若者議会PR事業

1 目的

第1期及び第2期の若者議会広報部では、若者議会を「市外」に向けてPRすることに重きを置いて活動してきた。第1期では、委員自らがモチーフとなったポスターを作成したり、若者議会のホームページを設立した。第2期では、活動が認められマニフェスト大賞シチズンシップ推進賞もいただいた。新城市若者議会の認知度は全国的にもアップし、現在も全国からの視察が絶えない状況となっている。

一方、市内への若者議会の認知度については、若者議会という名前を知っている方は多くいるが、どのような活動を行っているかまでは知らないという方が大半である。常日頃、広報ほのかやホームページ、SNSやブログ発信など、若者議会の活動を地域の方々に向けて発信しているが、若者議会の活動について地域に浸透していないのが現状であると感じている。

以上を踏まえ第3期で提案する本事業では「若者議会の地域のファンを増やすこと」を目的とする。若者議会に対する市内の認知度が上がり、理解者が増えることで、若者議会を継続的に新城市の政策として定着させることをめざす。地域の方々の支えがあって若者議会の活動ができてきていること、また、地域のファンが増えれば増えるほど大きな力となることを委員ひとりひとりに意識してもらい、広報PRチームが地域と若者議会をつなぐ架け橋となるように第4期若者議会を引っ張っていく。

最終的には、あらゆる世代の市民全体で若者を盛り上げ応援する体制ができ、新城市が脱・消滅可能性都市となることをめざす。また、この盛り上がり市外への波及へとつながり、若者議会のシステムそのものを取り入れる自治体が増え、社会全体が若者が活躍できるまちとなっていくことで日本を変えていくきっかけとしたい。

2 目標 ※明確な目標を記入してください。数値目標も入れてください。

- ・若者議会の会議ごとに地域の人が10人来てくれる。
- ・街頭アンケート「若者議会のファンですか？」→「はい」と回答する率70%
- ・若者議会ブログPV数(ページビュー)アベレージ月2万アクセス。
- ・第5期若者議会委員応募者40人。

3 手法(事業の概要) ※目標を達成するための具体的な手法を記入してください。

①地域へのアクション

- ・若者議会のTシャツやグッズなどを作り、地域の行事や市の取組みに出掛けPRや意見交換。
- ・市内の影響のある方にインタビューを行う。
- ・年度末に若者議会の活動報告会を開催する。
- ・ティーズやラジオで若者議会の番組を持つ。
- ・市内の中学校や高校でPR活動を行う。
- ・若者議会の事業紹介ポスターを作成する。

②若者議会ホームページ機能強化

- ・もっと身近に感じてもらえるように委員ごとの紹介ページを作成する。
- ・若者議会の紹介ムービーを作成しトップページに掲載する。
- ・地域の方の意見を収集できるようにアンケート機能を追加する。 など

③その他

- ・新城市を知るツアーを開催する(若者議会のプログラムのひとつとして地域の方と合同で)
- ・市内の名所や行事等についてブログを書く。
- ・高速バスに乗って藤が丘駅でPRを行う。
- ・Googleマップのスポットレビューを書く。

平成29年度第3期若者議会

若者政策 事業概要シート

事業名

ふるさと納税リニューアル事業

1 目的

ふるさと納税のPR方法・返礼品の見直しにより、全国に、新城市の魅力を今以上に発信し、新城市の認知度向上と経済活性化をめざす。
新城市には、「新城市と言ったらこれ！」というものが無いと思われる。県内には、岡崎といえば八丁味噌、豊橋といえばカレーうどん、豊川といえば稲荷寿司といったように各自治体にイチオシのものがあるが、新城市の1番と言えるものが、新城市民でも分からないのではないかと。そこで、新城市ゆかりの特産品あるいは催し物等をPRし、生産者の想いをふるさと納税の仕組みを通して発信する。そして、市外の人に新城市の魅力を届け、新城市のファンを増やすことを目的とする。
また、新城市のふるさと納税は、寄付後の市の使い道の用途が分かりにくいと、寄付の使われ方の見える化を進めることを提案する。現在ふるさと納税は返礼品ありきとなっているが、本来はふるさとへの支援や自治体の事業に魅力を感じて寄付を行う仕組みである。そのため、新城市のふるさと納税は、寄付の用途をより明確化し、新城市がどのような事業を実現できたかのPRもあわせて行うことで、リピーターを増やし、税収増加をめざす。

2 目標 ※明確な目標を記入してください。数値目標も入れてください。

- ①ふるさと納税広告物のリニューアル
→ふるさとチョイスの閲覧数増加
→ふるさとチョイスのふるさと納税なんでもランキングにランクイン
- ②ふるさと納税のPR
→メディア1社以上に取り上げられる
- ③寄附後の使い道を明確化
→寄附者の満足度・本市への認知度向上により、リピーター増加
- ④ふるさと納税返礼品のリニューアル
→新しい返礼品を1つ追加
- ⑤新たな制度の導入
→税収増加

3 手法(事業の概要) ※目標を達成するための具体的な手法を記入してください。

【第3期若者議会と企画政策課で協同して行いたいこと】

- ①ふるさと納税広告物のリニューアル
・ふるさとチョイス再編集に伴う、写真・文章の作成と掲載提案
・委員による生産業者へのインタビューを元に、ふるさとチョイスの記事及び若者議会HPに掲載

②ふるさと納税のPR

- ・ふるさと納税関連イベントへ視察
- ・ふるさと納税PR活動を行う
- ・若者議会からの寄附者へのお礼の手紙作成

【来年度、企画政策課及び関係する部署に検討してもらいたいこと】

③寄附後の使い道を明確化

- ・使い道の詳細をふるさとチョイスに掲載する
- ・使い道の進捗状況報告
- ・使われ方紹介の動画作成
- ・ふるさと納税についてアンケート調査

④ふるさと納税返礼品のリニューアル

- ・若者と地域産業との連携による返礼品開発

⑤新たな制度の導入(委員間でも、まだ検討中)

- ・ガバメントクラウドファンディング導入→各課へ照会し、特定の層への事業のため予算がつけづらいが意義のある事業等の財源確保の手段とする
- ・企業版ふるさと納税導入→個人への寄付だけではなく、企業からの寄付を呼びかけ、企業の地域貢献へと繋げる

平成29年度第3期若者議会

若者政策 事業概要シート

事業名

若者アウトドア観光事業

1 目的

市外の若い人に新城市の観光地を知って、訪れてもらうことで、新城市を好きになってもらう。そして、観光客の増加という点から市の税収を増加させることで、移住する人や市内の人にとって住みやすいまちにしていくことを目的とする。

特に若者は人口減少問題のキーとなることから、若者を対象としたSNSなどの事業をすすめる。

2 目標 ※明確な目標を記入してください。数値目標も入れてください。

①新城市の観光地を訪れる市外の若者を増やす。

→若者目線の広報手段を利用することで新城市を知ってもらい、実際に観光に来てもらうことでお金の消費が生まれる。それが、市の税収アップ、まちなみの活性化にもつながる。また、交通機関の利用も増えることから、交通機関自体の利便性の向上等も考えられる。

②市内の若者が新城の観光地を本気で好きになるようにする。

→若者目線での広報手段や若者ならではの新しい遊び方を実施していくことで、新城若者の一人ひとりが新城の事を知る、好きになることにつながる。それが、新城市の観光地を事を聞かれたときに答えられる若者を増やすことにつながり、新城市のために行動できる若者が誕生するとも考えられる。

また、新城市の観光地の魅力を本気で他市の友人に伝えることができる若が増えることで、新城市に来てみたいと思う若者を増やすことができる。

3 手法(事業の概要) ※目標を達成するための具体的な手法を記入してください。

【今年度第3期生が行うこと】

①新城市の観光地を訪れる市外の若者を増やす。

→チーム独自のInstagramの更新

ねらい:近年Instagramに投稿された写真を見て、観光地を選ぶ若者が増えている。そこでInstagramの利用が多い世代によるアカウントを作成することで、流行を掴みつつ同年代へのメッセージ性が高い投稿をし、新城市の観光地の魅力をまず知ってもらう。→そして来てもらう。

→女性・若者向けの観光パンフレットの作成

ねらい:デザインを女性・若者向けのものに作成することで、この層が手に取りやすいパンフレットを作成し、新城の魅力をより知ってもらうことができる。また、作成したパンフレットの設置箇所もターゲット層が手に取りやすい環境に配架することでより効果的に宣伝する。

【来年度の答申事業(案)】

①新城市の観光地を訪れる市外の若者を増やす。

→SUPの貸出

ねらい:若い人や、最先端のアクティビティに興味のある人たちが、新城の自然や魅力に触れあいながら旬のスポーツを楽しんでもらうことが出来る。

→レンタサイクル事業の拡充

ねらい:レンタサイクル事業をすることで、車で市内を移動するよりも新城市の空気を感じてもらえることが出来、駅に置くことで飯田線の利用促進にもつながる。ローカル線「飯田線」の魅力も知ってもらうことが出来る。

平成29年度第3期若者議会

若者政策 事業概要シート

事業名

図書館リノベーション事業

1 目的

図書館リノベーション事業は第1期若者議会からの3ヵ年継続事業であり、今年度が最終年となる。第1期では2階エリアのリノベーションを、第2期では1階エリアのリノベーションとソフト事業の提案・実施された。

今年度においては、第1、2期の事業を検証し、ブラッシュアップ(図書館でしかできない、図書館だからその提案)することで、図書館を、より多くの人・世代にとってのサードプレイスにすることを目的とする。

※サードプレイスとは自宅(第一)や職場・学校(第二)とは隔離された、心地の良い第三の居場所を指す。

2 目標 ※明確な目標を記入してください。数値目標も入れてください。

1期、2期ではリノベーションしカタチを変える、イベントを企画し実施することを目標としていたが、3期ではブラッシュアップすることが大きな目的なので、明確な数値目標を設定することが、より多くの人、世代にとってのサードプレイスとなったかどうかの指標になると考える。

数値目標 図書の貸出し冊数 +10000冊/年
図書館利用者数 +30000人/年

3 手法(事業の概要) ※目標を達成するための具体的な手法を記入してください。

1期、2期事業のブラッシュアップ+α

①図書館イベント(2期事業 9, 10月実施)

イベントと図書の関連性(貸出しや図書館利用に結び付いているか)

②多目的スペースを含めた2階エリア(1期事業)

利用する中で不便はないか。当初の目的「多世代利用」がされているか。

③図書の貸出し冊数に応じた特典(2期事業 10月実施予定)

特典(限定版利用者カード)による貸出し冊数への効果

④出張図書館の企画

市内のイベントに「新城図書館が行く」をテーマに、イベントにマッチした図書をセレクトし、会場で展示する。イベント参加者に図書との触れ合い(貸出し)をしてもらうことで、図書館を利用しない方へ、新城図書館の認知度向上や、図書館の利用者、貸出し数増加を図る。

例 市内企業説明会→職業・職種に関する図書の展示

⑤若者議会との連携

他の事業と連携し、図書の活用を図る

例 おしゃべりチケット事業・・・おしゃべり隊員におしゃべりする方(高齢者)に関係のある図書(郷土、職業、趣味)の貸出しをおこなう。

平成29年度第3期若者議会

若者政策 事業概要シート

事業名

ハッピーコミュニティ応援事業(まちなみ情報センター)

1 目的

まちなみ情報センターに若者が集まり、交流できる場所とする。
また、そこでは来場者が主体的にやりたいことができるように、サポートする。
まちなみ情報センターでの活動をきっかけとして、ひいては、来場者の自己実現、社会貢献活動を後押しする。

2 目標 ※明確な目標を記入してください。数値目標も入れてください。

- ・利用者数 今年度+1200人
- ・イベント開催回数 月1～2回

3 手法(事業の概要) ※目標を達成するための具体的な手法を記入してください。

- ・イベントの開催
(まちづくり推進課で実施し、来場者主催のイベントも行うor外部の運営団体を決めて運営を任せる、のどちらかで検討中)
- ・SNSでの情報拡散
- ・口コミ
- ・チラシ
- ・アンケート
- ・視察に行く
- ・声掛け

平成29年度第3期若者議会

若者政策 事業概要シート

事業名

いきいき健康づくり事業

1 目的

新城市における死亡原因の約6割が生活習慣病である。若者のうちからの運動習慣をつくり、生活習慣病を予防することで医療費を削減する。若手社会人、部活を退部者、帰宅部など運動する機会が少ない若者に対してバブルサッカー教室を通して運動する機会を提供する。教室中に行うレクチャーによりダイエット・ストレスなどについての正しい健康知識を提供する。また若者の出会い・交流の場にもなる。

2 目標 ※明確な目標を記入してください。数値目標も入れてください。

- ・25人(定員)の応募があること。
- ・脂肪燃焼コース全課程終了後アンケートで「定期的に運動をする」と回答する割合を8割以上とする。

3 手法(事業の概要) ※目標を達成するための具体的な手法を記入してください。

- ・SNS・ブログ
- ・チラシを配る
- ・全校集会、校内放送等での健康教室の周知
- ・新東・新高クラスマッチ等でバブルサッカーを体験
- ・参加者のアンケートが概ね好評のため、バブルサッカー健康教室は現行を維持して実施する。

平成29年度第3期若者議会

若者政策 事業概要シート

事業名

地域と関わる若者防災事業

1 事業課題の策定

- ・昨年度新城市防災フェスタで行った「Bousai-1グランプリ」では若者が防災について考えるきっかけにはなったが、自ら防災について行動するまでには、至らなかった。
- ・若者防災の会禪が開催している防災カフェも禪のメンバーにしかなかなか広がりがなかった。
- ・今年度は千郷学区の防災イベントへの参加をして地域との関わりが少ないと感じた。
- ・現在の禪のメンバーで災害ボランティアをきっかけに「防災意識を高めよう」という人がいたので被災地支援を行うことで防災意識を高める取り組みも必要である。
- ・防災に関わらず若者が地域との関わりが少ない。

2 目的

【政策答申当初の本事業の目的】

若者の防災意識を高め、災害時に活躍できる若者の育成に努めること

【ブラッシュアップを進めていく上で具体化した目的】

地域との関わりを増やし若者の若者防災意識を高めること

若者と地域との関わりを増やし、地域社会に参入することで、助け合いや支えあいの心を育み、被災時に積極的に活動できる若者を増やすことができる。

3 目標 ※明確な目標を記入してください。数値目標も入れてください。

- ・被災地へ行くことで、防災意識の重要性を再認識する。
- ・地域と連携できる若者を増やす。
- ・地域の人たちに防災に興味を持ってもらう。

4 手法(事業の概要) ※目標を達成するための具体的な手法を記入してください。

①被災地派遣制度の創設(若者と地域の人と一緒に行く)

若者と地域の人と一緒に被災地へ行くことで、若者の防災意識が向上するとともに地域の人とも連携することができる。

②被災地派遣報告会を開催する。

被災地に行った若者や地域の人が報告会を開催し、被災地で経験したことをほかの若者や地域に還元するために開催する。

平成29年度第3期若者議会

若者政策 事業概要シート

事業名

おしゃべりチケット事業

1 事業課題の策定

若者の関心度の現状を確認

事業化し高齢者と若者の話す機会を設けたものの、若者を集める仕掛けが出来ておらず参加者は2年目の現在で減少傾向にあります。そこで私達若者議会では以下の対策を行いました。

①社会福祉協議会の提案で自宅訪問から地域で行っているミニデイなどの介護サービスへ共に参加する事で参加しやすい環境づくり

②介護福祉に興味のある学生に向けたアプローチ

結果参加者が少しずつ集まり始めました。

これにより確認できた事は、私達委員も含めて家庭環境によって、介護に関心度が違う事と介護に関心を持っている高校生は存在する事です。これらのことより事業の目的が具体的な方がこの事業に関心を持ちやすい事が分かりました。

福祉業界の理解と人手不足問題

これまでに数回ミニデイに参加し若者が積極的に介護福祉に関わる事で、介護の現場から若者と積極的に関わりたいという相談がありました。新城市の介護福祉の実態について現場の声を汲み取りながら考えるというきっかけが作られたと思います。今後細部については協議していきませんが、福祉の業界の事を若者が正しく理解して取り組んでいく工夫が必要であると感じました。

子育て世代からの提案

若者議会内の意見として、子育て世代へのアプローチも必要であるという意見がでました。特に市外から結婚を機に転入し子育てに励む家庭では子育て以外にリフレッシュを図る機会が少ないことがあるという意見がありました。こうしたことから、この事業への関心を持ちやすいのではないかと。参加者の対象を子育て世代の方に広げる方向性の検討も課題に挙がりました。

2 目的

政策答申当初の本事業の目的

高齢者のコミュニケーションの機会を増やす事と若年者の世代間交流の不足、地域での見守りや支え合いの関心が薄れている事から若者と高齢者の交流する機会をつくる事で、若者と高齢者の心を豊かにする事。

ブラッシュアップを進めていく上で具体化した目的

- ・意識改善を行い新城市の社会福祉環境を改善する
- ・幅広い世代が「福祉」を通じて繋がるようにする。

3 目標 ※明確な目標を記入してください。数値目標も入れてください。

1. 高校生・大学生と事業を受ける側ミニデイ運営団体の両方におしゃべりチケット事業の認知度を上げる。
数値目標「おしゃべりチケット事業を知っている人を30%にする。」 ■アンケートで調査する。

2. 若者が興味関心を持ちやすいおしゃべりチケット事業のPRを提案する。

目標「若者のおしゃべりチケット事業を知っている人を増やす。」

3. 子育て世代が参加できるおしゃべりチケット事業を検討する。

目標「子育て世代におしゃべり隊員に登録してもらう」

4 手法(事業の概要) ※目標を達成するための具体的な手法を記入してください。

1. 高校生・大学生や事業を受ける側ミニデイ運営団体の両方のおしゃべりチケット事業の認知度を上げる。

●今年度のおしゃべりチケット事業で関わったミニデイを実施している団体や教育機関とのパイプをつくり、意見交換を行う。

2. 若者が興味関心を持ちやすいおしゃべりチケット事業のPRを提案する。

●広報ほのかで特集ページ(2ページ)をつくり、事業の周知を図る。

●若者が目を引くチラシを作成し、学校や若者が集まる(図書館、まちなみ情報センター)に設置する。

●若者議会のフェイスブックなどのSNSから情報を流す。若者議会の広報PRチームと連携して情報を提供する。

●動画を作成して、各学校などでPRする。また防災無線を使ってPRする。(実際に若者の声で)

→作成したチラシや動画で看護学科、福祉系の学校でPRする。(豊川市の宝稜高校やほのか専門学校)

3. 子育て世代が参加できるおしゃべりチケット事業を検討する。

●子育て世代が多く集まる場でPR →子育て情報誌さくらさんなどにも相談していく

●ティーズの番組の中で若者がPRする。→ピアゴに設置された大型テレビでも放送されるので子育て世代にも届く

●新城はなまるの記事に掲載する。

平成29年度第3期若者議会

若者政策 事業概要シート

事業名

教育ブランディング事業

1 目的

若者が一新城市民としての自覚・意識・アイデンティティを持つ手伝いをする事で、生涯にわたって積極的に社会参画することを促す

2 目標 ※明確な目標を記入してください。数値目標も入れてください。

- ・若者が自分の意思で活動することのきっかけの後押し→若者議会への応募数増→市議会議員の増加【①】
- ・新城市の若者(18歳以上～20歳まで)の平均投票率が日本の平均投票率はもちろん、新城市の平均投票率を超える。【②】
- ・小学、中、高校生の意見を市の政策に反映させる。【③】
- ・若者の意見を教育現場に届けるシステムを構築する。【④】
- ・移住先を教育システムの在り方で選ぶ人が多い点から、新城の教育システムを気に入って転入する家族の数を増やす。
- ・長期的な計画にはなるが、地域のコミュニティがより良いものへと進化していくこと(転入者も加わりやすくなる)
- ・継続的なワークショップ等を通して上記の目標につながるための「気づき」をもたらすことを目標としている。

【※語尾の番号は下の「3の手法」の番号とリンクしています。】

3 手法(事業の概要) ※目標を達成するための具体的な手法を記入してください。

【今年度やること】

- ・教育に関する先進地への視察
- ・新城中学校(12/3)での担当教諭との協働ワークショップを行う。【①】
- ・教育現場の先生との意見交換

【継続的にやること】

- ・アンケート実施(今年度から実施予定)
- ・教育現場でのワークショップ等の実施(選挙管理委員会との連携)
- ・中学生議会などが地域協議会を含めた様々なコミュニティ組織との意見交換を図る場を設ける。【③】
- ・地域教育協議会のような組織を作る。【④】
例えば教育委員会と地域の方(父兄)と学生が一同に会して意見交換を行う場を設ける。
意見交換の場の仕切りは若者議会などの参加者じゃないメンバーで実施して参加しやすい環境とする。
- ・データ収集(投票率など)

平成29年度第3期若者議会

若者政策 事業概要シート

事業名

若者消防団員加入促進事業

1 目的

近年、いつ発生してもおかしくないと言われている東海地震において甚大な被害が起こると予測されている中で、特に地域における消防団の役割の重要性が再認識されている。また、地域の青年団などのつながりが希薄化していく中で、若者世代のコミュニティとして消防団の存在は、将来における地域社会を支えていく若者たちにとって世代間・地域間のつながりを育んでいく貴重な場となっている。

新城市の消防団の現状については、消防団員数が地域支援団員制度が開始した平成24年から平成29年の5年間で、消防団員に占める29歳までの若者団員が約100人減少している。

(平成24年:全団員998人中若者280人=28.1% 平成29年:全団員928人中若者184人=19.8%)

当面の切実な課題としては、消防団員(特に若者世代)の確保であり、今後の消防団活動の維持ひいては地域の防災力の向上につなげるため、この事業を提案する。

2 目標 ※明確な目標を記入してください。数値目標も入れてください。

- ・若者の消防団員(29歳以下)を増やす。
- ・女性消防団員を増やす。
- ・消防団応援事業所を増やす。
- ・消防団協力事業所を増やす。

3 手法(事業の概要) ※目標を達成するための具体的な手法を記入してください。

○消防団協力事業所の優遇措置

・消防団協力事業所の認定を受けた事業所に対し優遇措置を行う(事業所の法人税を減税する・年に1回広報ほのかの紙面で事業所を紹介する・消火器を無償で提供する・広報ほのかの広告掲載料を免除する・報償金を支給する など)

○若者消防団員の優遇措置

・若者の消防団員の住民税を減税する。

○消防団応援事業所について

・消防団応援事業所についてもっとPRする。
・消防団応援事業所の一覧に公共施設利用の項目を追加する。

○若者の消防団に対する意識調査

・消防団に入っていない若者に対し、アンケート調査(消防団に入るためには・消防団のイメージなど)を実施し分析を行う。